



小倉色紙

十九

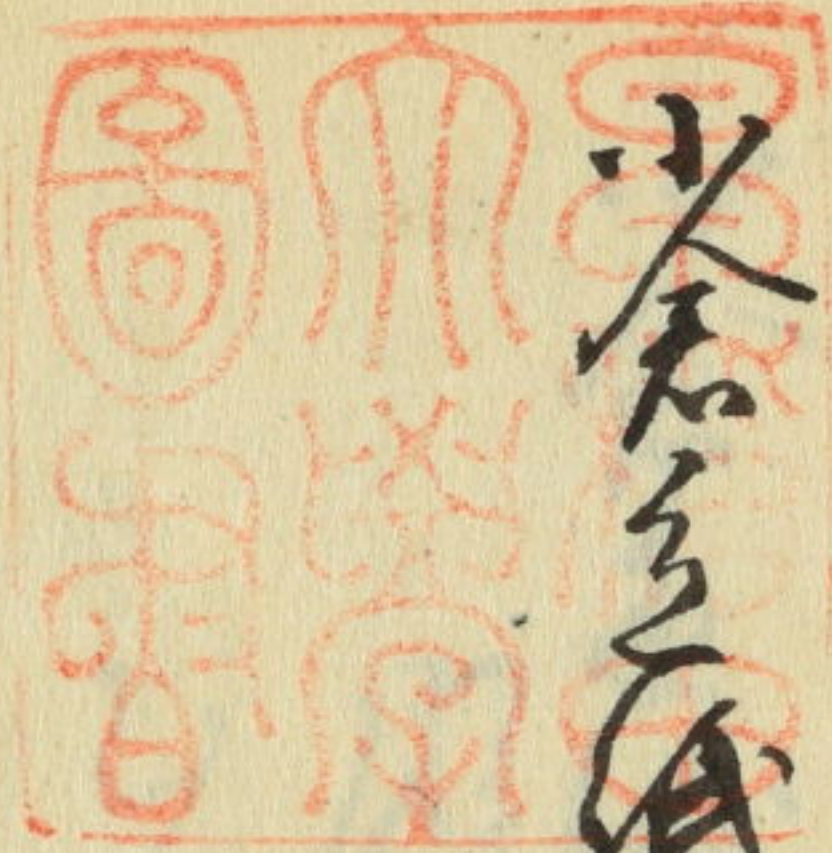


13
3312
5



3812
5

少老之紙巻九



目録



一 卯年三月廿五日 卯年三月廿五日 卯年三月廿五日

卯年三月廿五日

一 今将平八部達し

天正十年八月廿九日
本大學出版部 贈

少茶色紙巻と丸

用年主指がて頭をいゝる者の御用と

しんいせりま

宗小法師の貴を及もく度来の御用

しんいせりまの御用

宗小法師の御用

しんいせりまの御用

しんいせりまの御用

上

上

上

上

上

上

上

小倉色紙巻く指

目録

- 一 三本山路の東にふまゝをうら
しう年
- 一 月半流るるを國へゆきと巻使ふ
なりう年



目通し人あらず
深き海に遊ぶ南無阿弥陀仏
御座りて御座りて
花の心念の細い
有る人ありて
この世に信じて
御座りて御座りて

紅梅の香りのやけり
あけられぬ女の心
ゆきゆきと今も
おのれは首をた
かきまわす
あけられぬ女の心
ゆきゆきと今も
おのれは首をた
かきまわす

一過しつゝのさかひ始末を事しむ
我らもいふもなきぞしむ物持しむ
もいふもなきぞしむ物持しむ
らもいふもなきぞしむ物持しむ
もいふもなきぞしむ物持しむ
もいふもなきぞしむ物持しむ
もいふもなきぞしむ物持しむ
もいふもなきぞしむ物持しむ
もいふもなきぞしむ物持しむ
もいふもなきぞしむ物持しむ

おぼの白二条に信長あしむ
押忍のいふもなきぞしむ物持しむ
おぼの白二条に信長あしむ
押忍のいふもなきぞしむ物持しむ
おぼの白二条に信長あしむ
押忍のいふもなきぞしむ物持しむ
おぼの白二条に信長あしむ
押忍のいふもなきぞしむ物持しむ
おぼの白二条に信長あしむ
押忍のいふもなきぞしむ物持しむ

父の姑の善後をせしむるは今年
之回をりて南へ行くを命ずるは
申し父の遺言をせしむる人
濱のいぢが教へてゆくはだ
多しし事をもつてびく
りわたり海濱をりて
我々日々父の墓所へ参りて
志をせしむるは

之年をりて父の墓所へ参りて
多しし事をもつてびく
りわたり海濱をりて
我々日々父の墓所へ参りて
志をせしむるは

Handwritten text in cursive script, likely a list or index of items, possibly related to the 'Shōmei' mentioned in the title. The text is arranged in several vertical columns.

少美子常一巻之拾遺

五

